あかねだより

２０２４．２月号

今年も、梅の花が咲き始めました。花は自分の咲く時期を知っているかのようです。
「人も、その方が輝く時期が、人生の中において、必ずある」と、人生の先輩に教えて頂いたことがあります。ただ、その事に気づかず通り過ぎているのかもしれません。通り過ぎたとしても、まだ見ぬこれからに向かって、今を大事に生きていきたいと思う今日この頃です。書きたいことは山ほどあって、反省することも山ほどあって・・・失敗談も山ほどあって・・そのおかげで、次の目標が出来て、また明日に向かって生きていけます。

そんなセンチメンタルなことを考えてる横から、「ネエちゃーん。ネエーちゃーん。どげんしたらよかとー？」と大きな声で利用者さんに呼ばれます。
（あぁ・・もう少し乙女ちっくな時間に浸らせてくれ～）と思いつつ、「何ね何ね？どうしたとね？」といつもの夜勤が再開されます。
A さんは、時々夜眠れなくなる日があります。介護の世界でいう「昼夜逆転」と言うものです。
どこの施設にも、一人や二人昼夜逆転の方がいらっしゃるかと思うのですが、一旦昼夜逆転してしまうと、昼間起きての生活に戻すのは中々困難です。A さんの場合も、入院を機に昼夜逆転が始まりました。A さんの話をよくよく聞くと「寂しい」との事でした。
夜になりあたり一面が暗くなり、物音がしなくなると、なんだかこの世に自分一人になった様な気分になられるのでしょう・・「おーい、おーい」と言うとスタッフが必ず来てくれると分かっているから、呼ばれるのです。「おーいおーい」と呼ばれる日はスタッフも心得ていて、（寝ないな・・・今日は）と感じ、早めに仕事を終わらせ、A さんに付き合います。そうして傍にいると A さんは、幾分安らぎます。暫く休まれると、目を覚ましスタッフが傍にいないと分かると「おーい。おーい」と呼ばれます。
ある日の夜勤の時、眠っている A さんの寝顔をじっと見ていると目を閉じたまま「おーい。おーい」と呼ばれます。返事もせず私が黙ってじっと A さんを見ていると、パッと A さんが目を開けて「あーびっくりした。居るなら居ると

言わんね。」とベッドから飛び上がらんばかりの勢いで言われました。私は、「Aさんが呼んだけん、ここにおったとよ。A さん、目閉じたまま、おーいって言いよったね」と笑って言いました。A さんは、ニターと笑ってきまり悪そうに「寝とった。覚えとらん。もう寝るけん。」と言いながら目をつぶられました。

　夜は、誰でも、寂しくなる時があるモノです。そう思えば、私たち介護者にしか甘えることが出来ない A さんの「おーい」は私たちを信頼している証と思える・・・思えない？

まぁ・・「家に帰ってから、ゆっくり体を休めます。」と言ってくれるスタッフに感謝です。

私のつたない経験が「一燈照隅のたね」になれば幸いです。